



西原村の暮らし ～熊本地震を乗り越えて～

令和2年3月
西原村

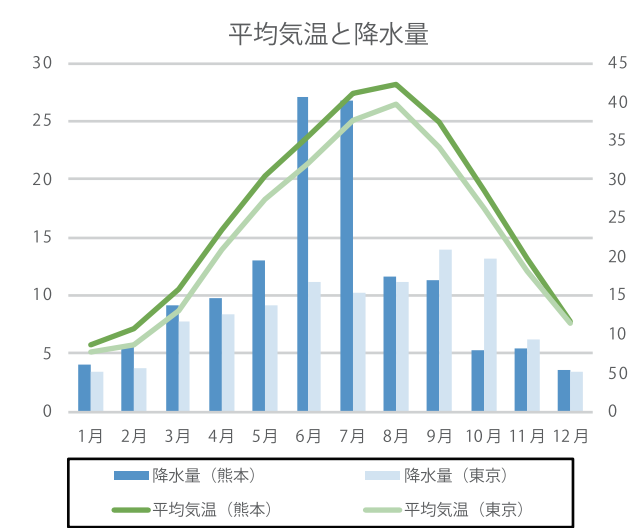
西原村の概要



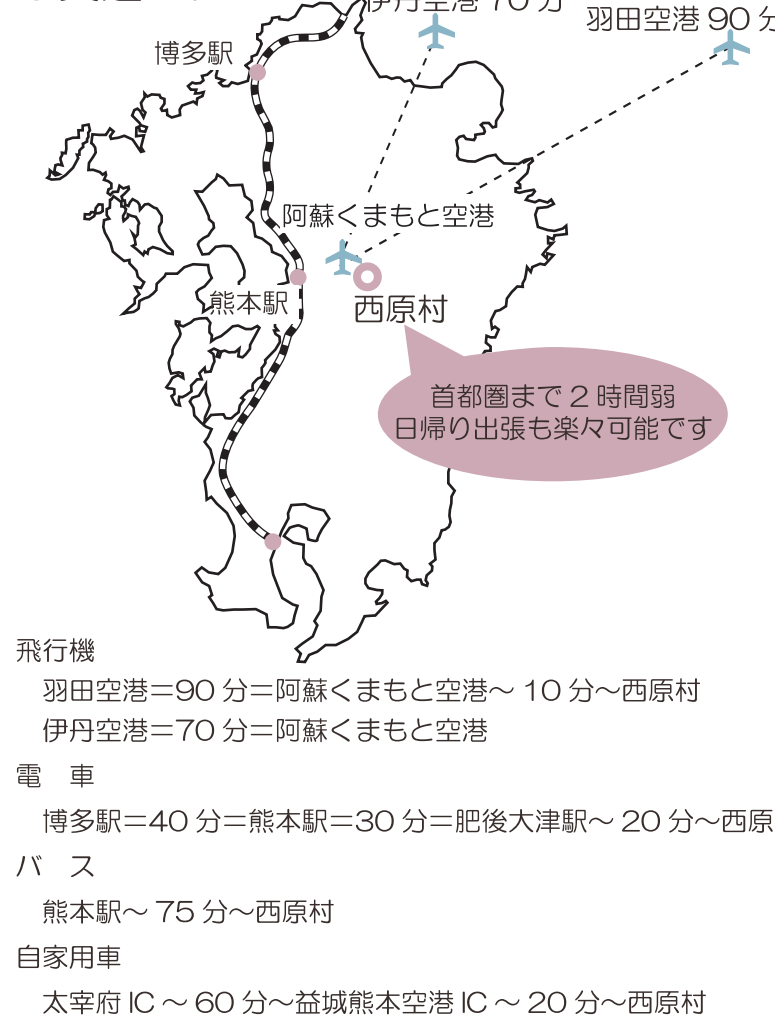
○気候の特徴

熊本県は東京都と比較すると1～2℃程平均気温が高くなっていますが、西原村は熊本市内よりも涼しいため、それほど暑さは気になりません。熊本は特に梅雨時期の降水量が多く、年間の降雨量の4割が梅雨期と言われています。これは三方を山に囲まれた地形で、南西から流れ込んだ湿った空気が雨となるためです。

他に気候の特徴として、春に村の東部にある炭山を中心とした広大な原野からの強風「まつぼり風」の吹きおろしなどがあります。



○交通アクセス



問い合わせ：西原村復興建設課 096-239-4417

西原村で暮らしてみませんか

○便利な田舎、西原村



村内には二つの保育園と二つの小学校、一つの中学校があり、小規模校ならではの一人一人に目が届くゆったりとした教育環境が手に入ります。また、学校・地域・企業などが連携し地元山や川で行われる郷土学習活動「ふるさと塾」は、優れた教育活動に取り組み団体・個人を顕彰する「博報賞」に選ばれました。



市内通勤圏の中で土地価格も安く(平均地価58,644円/坪)、阿蘇外輸山の自然に囲まれた美しい環境を手に入れることができます。車が必要になりますが、20分ほど走ると大津バイパス沿いに大きな店舗もたくさんあります。村の西部は郊外のベッドタウンを、村の東部はゆったりとした里山の環境を求めて移住される方が多いようです。



熊本市内まで車で60分、仕事はマチで、暮らしはイナカでというライフスタイルを多くの人が楽しんでいます。また、阿蘇くまもと空港から車で10分、九州縦貫自動車道インターチェンジに近い立地もあり、村内の工業団地には全国にネットワークを持つ企業が進出しています。近年、西原村を東西に貫く阿蘇と熊本市街を結ぶ県道沿いに店舗を構える方も増えてきました。

○移住者インタビュー



吉岡 真一さん 英子さん 蒼惟ちゃん 昊樹くん

県外の出身ですが、仕事で熊本に引っ越してきました。自然が楽しめる西原村、南阿蘇村周辺で家を探してました。西原村でも中心部は住宅街なのでより田舎なところを探していたら、風当集落にちょうど空き家があったので引っ越してきました。風当に来てから、近所を家族で散歩していると集落の方がよく話しかけてくれました。風当は昔の名残あるいい風景があったり、家の近くでは水の流れる音が聞こえたりして、そういうところが大好きです。熊本地震で環境が大きく変わってしまいましたが、昔ながらの良さが少しでも残ればいいなと思っています。最近では若手の人で集まる機会が増えて楽しいです。



伊澤 隆嗣さん 和美さん 琉太郎くん 桜子ちゃん 桃子ちゃん

これまで住んでいたところと比べると、西原村は食べ物おいしいですね。空気もいいし、水もおいしいっていうのがすごく大きいですね。それから「熊本の人って新参者を受け入れない」みたいなのをよく聞くんですけど、僕たちが下小森集落に来た時に、当時の組長だった久保田誠さんがすごく音楽オタクの人で、彼がいろんな人に「すごいサクスプレイヤーが来たから」って言って下さって、すごく世話してくれたんです。彼が動いてくれたのでそれもあってか、皆さんに良くしてもらいました。部落の人がみんなやさしいところとかも大好きです。大都市ではそういう繋がりはないし、同じマンションに住んでいてもしゃべったりする人がいないですから。

西原村の暦

西原村の春

年度の始まりには集落によってお花見や厄入り厄晴れの集まり、熊本地震の復興祈念祭をすることもあります。



西原村の夏

子どもの夏休みや親戚の帰省に合わせて各地区でお祭りやレクリエーション大会などが行われます。



西原村の秋

収穫期を迎え、一番過ごしやすい季節です。全村民が参加するスポーツフェスティバルもこの時期に開催されます。



西原村の冬

正月の飾りや餅などを燃やすどんどやなどの伝統行事が受け継がれています。最近是一緒にバーベキューを行う地区もあります。



原野の維持には欠かせない山焼き



6月頃は蛍の最盛期を迎えます



遊歩道のように管理される村の道



秋に咲き誇る前の里のコスモス



冬の風物詩「冬明かり」

西原村と熊本地震

平成28年4月14日及び16日に発生した熊本地震は西原村にこれまでに経験したことのない試練を与えました。建物や農地、道路などに甚大な被害を受けました。尊い生命も失われました。今でも住民の心には大きな傷が残っています。しかし、国内外のみならず温かい支援をいただきました。また、助け合える隣近所の関係性に救われました。熊本地震は、人と人との繋がりのありがたさと、地域コミュニティの力を教えてくれました。私たちはここで立ち止まることなく前に向かって歩むことが、今一番大切なことと考えています。震災を乗り越えより良い西原村にするため、復興の道を歩んでいます。



○震災時の西原村の様子

西原村内を通る主要県道である熊本高森線は村の東側西側ともに通行不可となり、村民の生活を脅かしました。現在は全線復旧しています。



村内に小・中学校の体育館等の6つの公的避難所が設置され、最大1,809人が避難生活を余儀なくされました。避難所の運営は行政だけでなく住民による自主運営が行われコミュニティの強さが現れました。



○集落再生に向けた取り組み

被害の大きかった6集落では、震災直後から「集落に残る人が居なくなってしまうのではないか」「集落で暮らし続けることができなくなってしまうのではないか」といった懸念が語られました。そこで、個々の生活再建にとどまらず集落として生活再建の方針を取りまとめ、地域全体の復興をどう進めていくかが話し合われました。

平成28年4月に発生した熊本地震により、西原村は全村で甚大な被害を受けました。発生直後から全国の皆さまより、支援物資、ボランティア活動、義援金、寄附金など、多大なるご支援・ご声援をいただきました。この場を借りて改めて御礼申し上げます。

村の暮らしの決まり事

西原村では、古くからの住民自治組織(集落)が暮らしの基本的な役割を担っています。普段の暮らしの中でも集落の寄り合いなどがあり、地域のことをそこで暮らす人が話し合いながら決め実行しています。都会で暮らしている人は少しびっくりすることもあるかもしれませんが、ここではそんな村の決まりごとについて紹介したいと思います。

集落と区費

基本的に自分が住んでいる集落の自治会に全世帯が加入します。主な活動はその年の役員決めや区費の回収、規約の改定などが行われる初寄りや年3回の区役(草刈りなどの共同作業)です。水道組合や公民館活動など集落を基礎的な単位にしているため、生活する際は欠かせない組織です。他の自治体と同じように区費の支払いがあり、集落の様々な活動に使われます。区費の金額や徴収方法は集落によって異なります。



区役への参加

道路の草刈りなどの集落の共同作業のことを区役と呼びます。春夏秋の3回の草刈りの他に、必要に応じて集落から声がかかります。原則各世帯から1名が参加し、参加できない場合は不参金を取られることがあります。区役に参加することで集落の人と親しくなることができます。秋の区役は集落対抗の道路清掃品評会が行われるため、どの集落も清掃作業に力が入ります。



集落が持つ財産

集落には先人の住民が築いてきた財産があります。その内容は集落ごとに異なりますが、原野の入会権など大きな価値の財産を持っている集落も少なくありません。地区によって細かな取り決めは違いますが、集落に加入するということはその権利を持つということになるため、加入金を求められることもあります。区長などに聞いてみましょう。



地域水道による水供給

西原村では村営水道とは別に住民が組織した組合が整備した地域水道を上水道として利用している集落があります。水利権はとて大切なもので、後から加入する場合は水利権として初めに組合への加入金が必要となります。また、水道の維持管理の活動も組合員がしなければなりません。地域で管理しているため、村営水道よりも水道代金が安価に設定されていることが多いです。



古閑ぐらし

古閑地区って…?

古閑は自然豊かで四季折々の景色があり「人の繋がり・ぬくもり」が感じられる地区です。年間を通じて、お祭りや共同作業がたくさんあります。参加することで、地区の人たちとの距離がぐっと近くなりますよ。



行事①例大祭



行事③防火線切り



行事②夏祭り

古閑地区は若い人がたくさん!

子育てや孫育てをしている人も多く、子どもたちをみんなで見守る雰囲気が出来上がっています。消防団の活動などで、若い人たちがいきいきと活躍しています。



いろんな世代の団結力がすごい!

地区の行事や寄り合い(集まり)などで、広い世代と一緒に活動しています。熊本地震の時はこの団結力を発揮し、地区全体が協力して、復旧・復興してきました。お風呂やトイレを作るなど、自分たちで出来ることはどんどんやるのが古閑流です。他に、魚のつかみ捕り大会や、グランドゴルフ場に水を入れる滑り台も作りました。

楽しなどがたくさんあって楽しい!

夏祭りや運動会などのイベントや、昔から続く鳥子三之宮神社(お宮)の祭事など、いろんな催しを、地区のみんなで協力しています。その他にも、友人と集まってBBQをしたり、いろんな楽しみがありますよ。



自然豊かで四季折々の景色がきれい!

東には阿蘇外輪山の一部である標高1,095メートルの俵山を中心に、原野と山林が広がります。山から吹く東風のことを親しみを込めて「まつぼり風」とも呼ばれますよ。古閑地区では、夏に川遊びや魚釣り、山菜を摘んだり、ホテルも見ることが出来ます。周辺に広がる田畑では、多くの農作物を収穫することができます。新鮮野菜はおいしかよ。

大切畑地区の紹介

大切畑って…?

大切畑地区は、熊本空港から東へ約7km、車で15分程度の、阿蘇外輪山の俵山の西麓に位置しています。世帯数は18世帯38人(令和2年3月末時点)で、0~14歳の比率は村内の畑地区に次ぐ高さです。ごぢままりとした集落ですが、その分、人々のつながりがつよく、とっても温かみのあるところです。



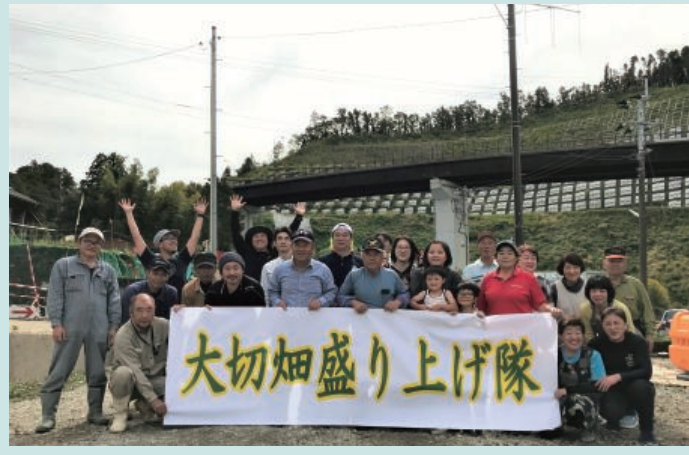
いろんなイベントがあります!

1月のどんどや、3月の山焼き、・・・と四季を通じていろんなイベントがあります。緑豊かな自然の中で、さまざまなイベント体験ができますよ。



人々のつながりが強いです!

令和元年度には、新たに、地域の外の人にも加わってもらいながら、一緒に暮らしていく大切畑を目指すため、地域で色んな活動に取り組む「大切畑盛り上げ隊」を結成しました。花植え活動やイルミネーションづくりと、地域を盛り上げていく活動を少しずつですが始めています。ぜひあなたも加入しませんか?



大切畑の自慢は?

- 地区の皆さんに聞いてみました!
- ・集落の人たちが親切!
- ・空港まで見える景色のいいところ!
- ・水がおいしく、おいしい野菜、お米ができる!
- ・子どもはみんなで育てて、お年寄りもみんなで面倒みるところ
- ・集落全体がひとつの家族みたいなところ!



カザアテの暮らし方

風当集落ってこんなところ

風当集落は西原村役場から車で約5分、県道沿いに位置しており、世帯数は27世帯80人(令和2年3月末時点)で畑と山に囲まれた自然豊かな集落です。UJターンした住民も多く、子ども会やコスモス会(婦人会)、老人会、若手の会など各世代で結成された自治組織が各々でイベントを企画してサロンや旅行、柚子胡椒づくりなど楽しみながら活動をしています。



老人会のいきいきサロン、七夕会、コスモス会(婦人会)、若手の会で柚子胡椒づくり

だから風当に住みたい!



季節の野菜をわけてもらえる!、多彩な人がいっぱい、専門農家は現在の軒ですが、多くの方が田畑を持っています、雑貨店「LEVENT」、景色がいい!、なにより人が優しい!!!



高台から熊本市内方面への眺めは絶景です。



昔ながらの暖かい雰囲気がある集落です。

風当写真館



婦人会集合写真(1947年頃)、どんどや(1970年頃)、集落で遊ぶ子どもたち(1990年頃)、お花見(2019年3月)

畑集落の紹介



HATAMON lives here

熊本地震によって集落の景色が変わりましたが、現在、畑区に加入する世帯数は22世帯で、その他に集落内には賃貸共同住宅2棟10戸が立地しており、概ね地震前の日常を取り戻しています。畑集落は、環境と生活のバランスが良く、人が優しく大変仲のよい集落です。

畑区の自治組織とルール

畑区自治会: 集落の会合、催しは主に畑地区公民館で行います。年始には全戸から1名ずつ公民館に集まって、区長等の選任や会計予算、年間計画などを話し合います(初寄り)。消防団: 隣の風当地区と合同で定員の9名が地域の防災、消火活動に備えて町の防災行事に合わせ活動を行っています。自主防災組織: 防災訓練等の活動を行います。その他の組織: 子ども会や老人会、婦人会があります。ゴミ出し: 集落に2ヶ所あるゴミステーションに決まった日にゴミを出します。ゴミを出すためには自治会に加入する必要があります。

区費: 自治会に加入するには区費が必要になります。8,300円/年・世帯(非農家世帯・消消費込)です。

区役: 5月と9月の年に2回、道路清掃作業を行います。基本各世帯から1名の参加義務があります。

これからの集落

- ・畑地区は人情味がある。大きい集落ではないので小さい頃からみんなをよく知っている。みんなで協力して物事にあたるような地域性がある。
- ・将来もこのままでいいと思っているんですよ。僕は熊本市内から来て集落に入らせていただいているんですけど、すごく入り易かったし、多少の不便さはあるけど「以前とあまり変える必要はないかな」と思っています。強いてあげるならば、畑は若い世代が多く、その子ども達も「畑で暮らしたい」と思うように育ってほしい。



集落の年中行事

- 1月: 初寄り・どんどや・先祖まつり
- 3月: 馬ん子祝い
- 5月: 区役
- 8月: 先祖まつり・地藏まつり
- 9月: 区役



区役(道路清掃作業)



どんどや

Re:しもごもり

—ここが私たちの住む下小森です—

下小森ってどんなところ?

ゆったりした時間が流れる下小森
ほっこりしたアット・ホームなあたたかさを感じる下小森
ぐるり、めぐってみたら意外な発見がある下小森

そんな下小森の暮らしを紹介するガイドブック「Re:しもごもり」を手に、下小森に来てはよい。



ようこそ下小森へ



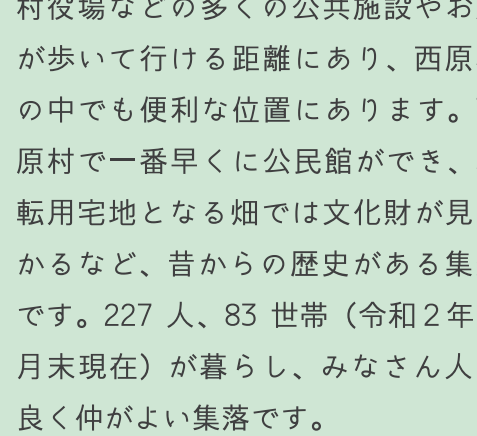
集落の風景



原野一斉火入れ



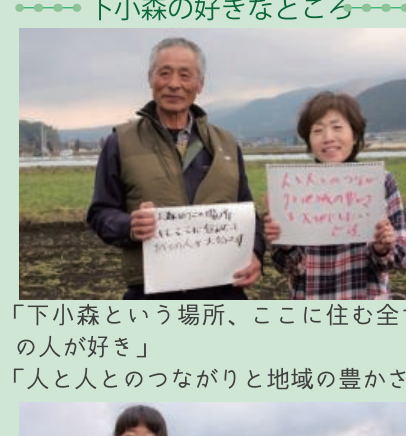
ふれあいカラオケ大会



村役場などの多くの公共施設やお店が歩いて行ける距離にあり、西原村の中でも便利な位置にあります。西原村で一番早くに公民館ができ、移転用宅地となる畑では文化財が見つかるなど、昔からの歴史がある集落です。227人、83世帯(令和2年3月末現在)が暮らし、みなさんが良く仲がよい集落です。



復旧した小森神社



「下小森という場所、ここに住む全ての人が好き」「人と人とのつながりと地域の豊かさ」



「みんな仲がいい」



「一杯飲むか〜家族の絆よ」

布和里ぐらし

布田集落ってこんなところ

布田地区は、西原村役場や図書館、中学校まで歩いて行ける距離にあり、他の地区と比べると、区内でほぼ高低差のなく開けた土地の印象を抱く地区です。熊本地震後に区内の人口は減りましたが、現在122世帯(地震前の81%)が住み、区内のあちこち、特に上布田地区、下布田地区で自宅再建が進んでいます。

地区の区と組

布田地区は上布田・下布田・北向新屋敷の3区に分れ、区の中で、更にそれぞれ3組、3組、2組の計8組に分かれています。世帯数は多い組で20世帯、少ない組で8世帯です。このため、布田地区では、地区よりも、各組で集まったり、協力したりする機会が多いです。

地区の歴史と伝統

布田地区は、長らく西原村の中心地として栄えてきた歴史のある地区です。阿蘇稚遊が家督を相続するまで住んでいた屋敷跡があり、江戸時代には現在の南阿蘇村から大津町の一帯を管轄していた手永会所が置かれていました。また、奉納相撲や神社の遷宮祭が行われるなど、伝統が後世に引き継がれている地区です。

地区のむらづくり

2000年頃から区内を盛り上げようと、住民たちで集まって様々なイベントを企画・実行しています。「布田が和やかな里になるように」と願いを込めて地区だより「布和里」を定期的に発行しています。また、村内の方に布田地区を知ってもらうためにFacebookページを作成しました。「西原村布田地区」で検索し、閲覧することができます。是非ご覧ください。

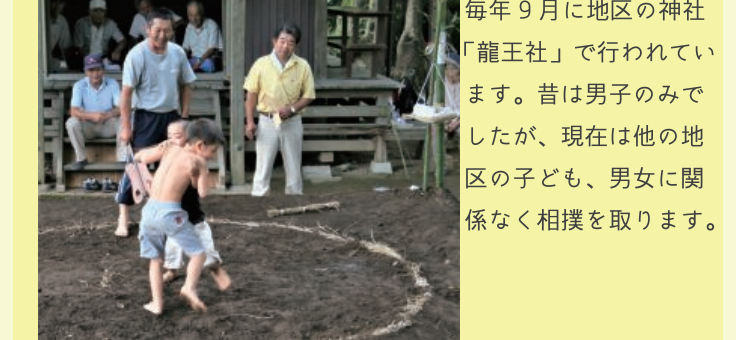
布田集落の地域行事

八王社遷宮祭



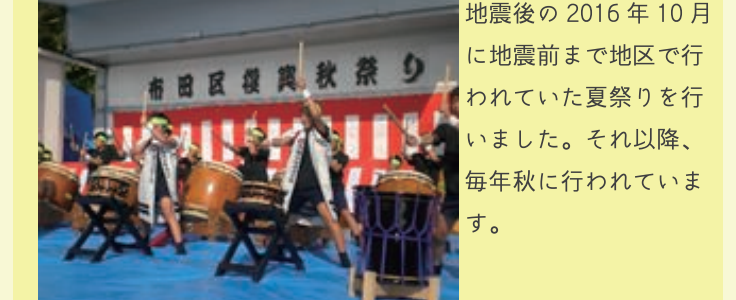
1721年の大水害後に、隣の宮山地区に神社を移築しました。その後、50年おきに、250年祭からは25年おきに盛大な遷宮祭が行われています。

龍王社奉納相撲



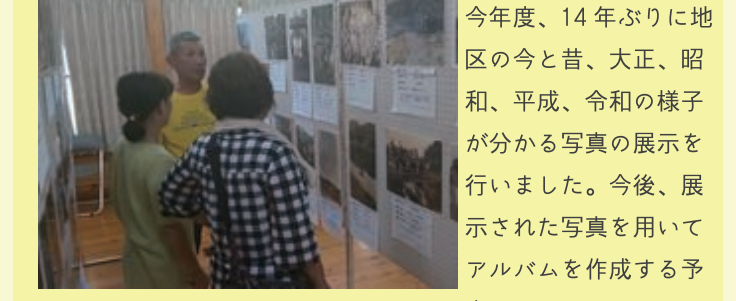
毎年9月に地区の神社「龍王社」で行われています。昔は男子のみでしたが、現在は他の地区の子ども、男女に関係なく相撲を取ります。

復興秋祭り



地震後の2016年10月に地震前まで地区で行われていた夏祭りを行いました。それ以降、毎年秋に行われています。

今昔写真展



今年度、14年ぶりに地区の今と昔、大正、昭和、平成、令和の様子が分かる写真の展示を行いました。今後、展示された写真を用いてアルバムを作成予定です。